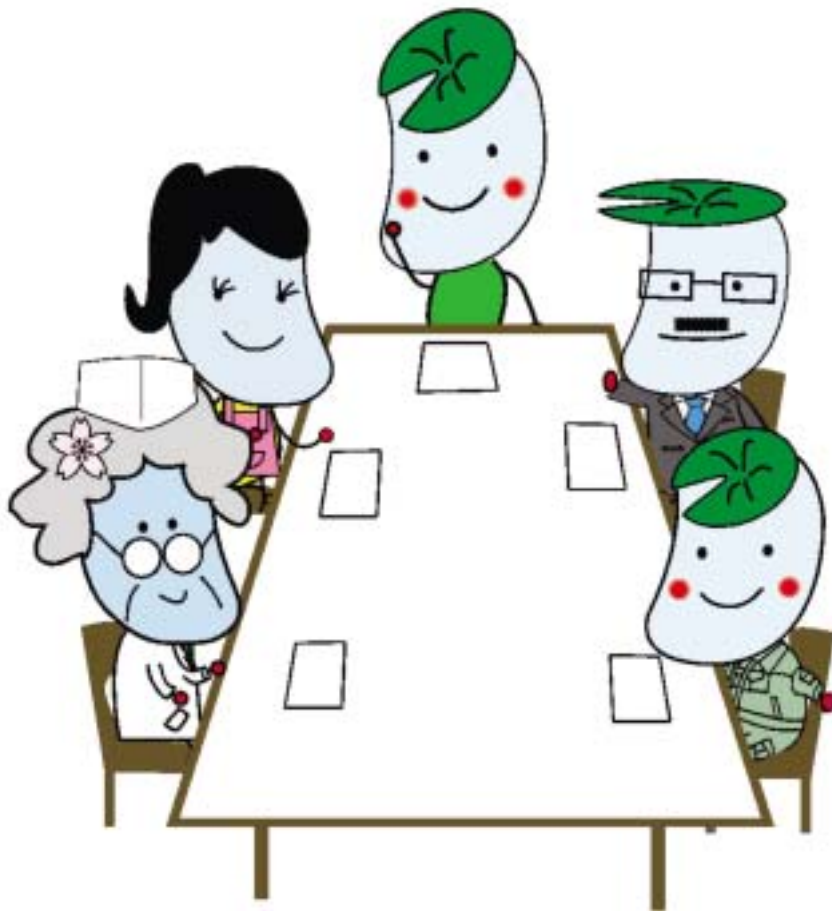


平成28年度

地域と企業等の縁むすび事業

地域活動事例集



南区役所

FUKUOKA CITY MINAMI WARD



目 次

| | |
|------------------------------------|-------|
| はじめに | 2 |
| ～南区の企業等による地域活動事例～ | |
| 事例 1：株式会社 ダイキョープラザ | 3～4 |
| 事例 2：株式会社 飛鳥 飛鳥会館 | 5～6 |
| 事例 3：株式会社 山口油屋福太郎 | 7～8 |
| 事例 4：株式会社 やずや | 9 |
| 事例 5：住宅型有料老人ホーム 生活倶楽部ウイズ長丘II | 10 |
| 事例 6：特別養護老人ホーム 花の季苑 | 11～12 |
| 事例 7：エフコープ生活協同組合 | 13～14 |
| 事例 8：上長尾商店街 | 15～16 |
| 事例 9：香蘭女子短期大学 | 17～18 |
| 事例10：公益財団法人 社会福祉笑顔ふれあい財団 | 19～20 |
| ～平成28年度 事業実施報告～ | |
| まちづくり懇話会開催報告 | 21 |
| マッチング事例紹介 | 22 |

はじめに

◇趣旨

近年、少子高齢社会の進展や単身世帯の増加、住民同士のつながりの希薄化等により、地域活動の担い手不足や参加者の固定化、負担感が課題となっています。この事業は、南区内の企業や事業所による新しい地域貢献活動が行われていることに着目し、企業等が持つ様々な資源（人やモノ、場所、ノウハウ、専門性など）を、地域課題の解決や地域活性化に活かす取り組みとして、平成28年度からスタートしたものです。

地域、企業、行政が、それぞれ個別に活動するのではなく、相互理解を深め、連携することで、多様化する地域課題に柔軟に対応できるような、共助社会の形成を目指していきたいと考えています。

本事例集は、様々な地域活動を行っている南区内の企業や大学等にヒアリングを行い、その取り組み状況をわかりやすくまとめたものです。自社の人材や資源を活かして、地域とつながり、地域へ貢献する企業等の活動事例について紹介していますので、地域活動に関心のある企業や事業所の方々の参考になれば幸いです。また、地域で活動されている皆さまにも、企業等と連携したまちづくりのきっかけにいただければと思います。

◇事業概要

【対象】南区の企業・事業所・NPO・商店街・大学
南区の住民・地域団体 など

【目的】企業や商店街、NPO、大学など多様な主体が持つさまざまな資源（人やモノ、場所・ノウハウ等）を、地域課題の解決に活かす取り組みを推進し、地域・企業・行政間の更なる共働を促進する。

【H28年度実施内容】

- ・企業等と地域の関わり方を話し合う懇話会の開催
- ・企業等が持つ様々な資源と、地域課題のマッチング
- ・企業等の地域活動支援
（地域情報の提供、関係者の連携調整など）
- ・企業等の協力による新しい地域活動事例集の作成

事例1：株式会社 ダイキョープラザ

会社概要

【所在地】(本部)福岡市南区柳瀬1丁目33番10号

【設立】昭和53年5月18日

【従業員数】社員83人 パートナー230人
(H26.9月末時点)

【事業内容】福岡県を営業基盤とする地域密着型のスーパーマーケット。店内に複数の生鮮専門のテナントを配置しているのが特徴。本店(弥永店)の他に、県内に4店舗を展開している。



○安心・安全な地域御用聞き並びに宅配サービス事業「買援隊」

ダイキョープラザが中心となって構成される「柳瀬町商店連合会」が、平成26年度に福岡市の「地域との共生を目指す元気商店街応援事業」の助成を受け、買い物支援事業を実施。

弥永団地を主な商圈とする当商店街は、南区内で最も高齢化が進んでいる地域にあり、食品小売店や飲食店も減少している。これらのことから、地域に居住する高齢者等が現に困っていること、必要としていることは何か、地域自治会(柳瀬町、弥永団地)との話し合いを重ね、従来から実施していた宅配サービスを見直し、エリアを限定し(店舗から半径1km程度の狭い範囲に絞る)、その分1件あたりのサービスを厚くした新たな買い物支援事業「買援隊」の取り組みを開始。

現在も、積極的に地域と情報共有を図りながら事業を継続している。

～「買援隊」事業の特徴～

- ① 御用聞き電話による安否確認と見守り
- ② 入会申込書を基にした見守りランク設定と緊急連絡網の確立
- ③ 地域自治会・民生委員・南警察署等との連携、情報交換
- ④ 防犯啓蒙活動(カタログ掲載・配布物)
- ⑤ バイク便による迅速な宅配
- ⑥ リサイクルごみの回収
- ⑦ カタログ外商品の調達

※継続した取り組みとできるように、宅配のランニングコストは同社と利用者の双方で負担する仕組みとなっている。

対象は高齢者だけでなく、身体が不自由な方や産後の主婦、施設入居者等、幅広くカバー。



○地域カフェへのスペースの提供

弥永校区の地域カフェの場として、毎月第1金曜日(8月、12月を除く)にスーパー前の広場を提供している。弥永校区では、校区内の様々な場所でも地域カフェを開催しているが、ダイキョーでの開催時には、健康チェックや福祉相談コーナーなどのプログラムを実施している。買い物ついでに気軽に立ち寄ることができることもあり、参加者が100名を超えることもある。普段は地域のつどいの場に参加しない人も、「ダイキョーでやるなら」と、初めて地域カフェデビューする人も多い。

○ダイキョー夏祭り

毎年7月と8月に、スーパー前広場で夏祭りを実施。舞台を設置し、そこで地域の各種サークルなどが日本舞踊やダンスを披露。日頃の練習の成果を発揮する、貴重な発表の場となっている。



多彩なステージプログラムは大盛況

○災害時における物資の供給

昨年発生した熊本地震を機に、災害時こそ地域の役に立ちたいという思いから、平成29年2月に、同社と南区との間で災害時における物資の供給に関する協定を締結。

協定は、地震・風水害といった大規模な災害の発生により、区内の広範囲が被災し、かつ、多数の避難住民が発生した場合、特に災害発生から概ね72時間(3日間程度)において、区が同社の協力(食料品や日用品の無償提供)のもと、避難住民に対して速やかに物資を供給することを目的とした内容である。

【(株)ダイキョープラザ 代表取締役 杉 慎一郎 社長】

「創業者の『単なる食品スーパーとしての役割にとどまることなく、地域に貢献することこそ、企業の存在意義である』という想いを受け継ぎ、地域に根差した色々な活動に取り組んできました。今回は、大規模災害のような有事の時にこそ、何かできることがあるのではないかと考えていたので、協定締結というかたちで実現できてよかったですと思っています。」



平成29年2月28日に南区役所で行われた調印式の様子

【弥永校区社会福祉協議会 大島会長】

「スーパーダイキョーは、この地域の人たちが1番集まる場所で、なくてはならない場所。何か困りごとがあったら、ダイキョーさんに相談するなど、いつも力になってもらっています。校区で力を入れている認知症の方に対する支援について、徘徊高齢者対応の声掛け訓練でも、全面的に協力してもらっており、大変心強いです。」

【(株)ダイキョープラザ 赤間総務部長】

「スーパー前の広場は、地域のコミュニティの場となっていて、ここに来れば誰かに会えるからと、1日に3～4回いらっしゃる高齢者の方もいます。40年以上、この地域の方たちに支えられてきた企業としての社会的責任を、これからも果たしていきたいと考えています。」

事例2：株式会社 飛鳥 飛鳥会館

会社概要

【所在地】(本社)福岡市南区野間1丁目27番5号

【設立】昭和57年5月

【従業員数】22人

【事業内容】飛鳥会館は、葬儀専用式場で、予算や故人・遺族の希望に応じて、家族葬や社葬、生前葬を含む様々な形の葬儀をプロデュースしている。法事やイベントの相談にも、経験豊富なスタッフが応じる。野間の本社斎場のほかに、南斎場(西長住)、中尾斎場、井尻斎場、博多南斎場(那珂川町)、太宰府斎場がある。



○高齢者の買い物支援バス

株式会社飛鳥・飛鳥会館は、地域と連携して、自社の中型バスを使って、買い物が困難な高齢者を商業施設などへ無料送迎する「買い物支援バス」の取り組みを行っている。

買い物支援バスは、南区社会福祉協議会が、買い物が困難な高齢者を助けたいと考えていた柏原2丁目の柏原東町内会と、飛鳥会館を引き合わせて、平成26年5月から事業化したもので、現在は対象地域を広げ、区内4校区(柏原、鶴田(柏原東)、長丘、西高宮)で実施。



買い物支援で活用している飛鳥会館のバス



市政だより(南区版)でも紹介

月2日(2校区/1日)運行しており、校区内数か所の集合場所を回った後、近隣の商業施設へ行き、帰りは利用者の自宅近くまで送る。利用者は、「普段は誰かに買い物を頼むことが多いので、自分で商品を選ぶのが嬉しい。」「自動車免許を返納したので、助かる」と、運行日を楽しみにしている。



たくさんの買い物袋を抱えてバスに乗り込む利用者の皆さん

運転手の人件費や燃料代は飛鳥会館が負担し、地域は、荷物運びなどのボランティアを募り、利用者の買い物の介助を行う。

地域の取りまとめ役を担うのは、町内会や民生委員、公民館など、地域の実情によって様々であるが、南区社協の校区担当が、地域と飛鳥会館の間で連絡調整がスムーズにできる体制が整うまで、両者の間に入って取り組みを支援している。

葬儀の少ない友引の日を運行日とすることで、本業務に極力影響がないよう工夫。運転手と利用者は、すっかり顔なじみとなっており、気軽に声をかけ合っている。はじめは「葬儀社のバス」にためらっていた人も、今では「いずれお世話になる」と笑い合える関係を築いている。



長丘校区の参加者の皆さん

【飛鳥会館 佐藤課長】

「地域の皆さんに喜んでいただいているので、やりがいがあります。日頃から、スタッフが南区内の公民館に顔を出すなどして、何かあった時に、声を掛けてもらえるような関係づくりに努めています。」

【南区社会福祉協議会 石本次長】

「買い物支援バスの取り組みは、地域貢献をしたいという飛鳥会館の思いと、丘陵地で買い物に困っている高齢者の支援という地域課題が上手くマッチングした事例です。」

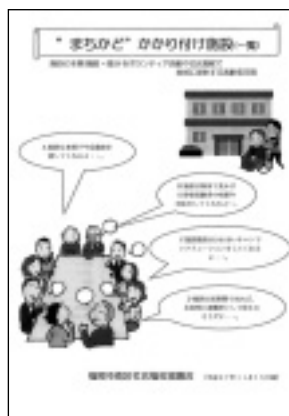
社会福祉協議会は、このように『地域のために何かをしたい』と考える企業と、さまざまな取り組みをしたい地域を結びつけ、活動の支援や事業全体の調整を行っています。お互いのことがよく分からない状況で、最初から直接やり取りをするのは、企業にとっても地域にとっても難しいことですので、まずは社協にご相談いただければと思います。」

～南区社会福祉協議会～

〒815-8501 福岡市南区塩原3-25-1 南区役所別館1階

TEL：092-554-1039 FAX：092-557-4068

E-mail：minamiku@fukuoka-shakyo.or.jp



同協議会では、買い物や外出が難しい人のための「買い物支援ガイドブック」や、高齢者施設の本業（機能・強み）を活かして提供できるボランティア内容を一覧にした「まちかど かりつけ施設一覧」を作成、配布しています。

事例3：株式会社 山口油屋福太郎

会社概要

【所在地】福岡市南区五十川1丁目1番1号

【創業】明治42年3月

【従業員数】471名

【事業内容】「味のめんたい福太郎」でお馴染みの辛子明太子の製造・販売。様々な食品を取り扱う総合食品卸問屋でもある。

同社は、様々な明太子のブランド開発や、関連商品を手掛けているのが特徴で、辛子明太子風味せんべい「めんべい」は、今や博多土産として定番となるほどの人気。



○福太郎まつり

毎年秋に本社敷地内で「福太郎まつり」を開催している。地域の方々へ日頃の感謝を込め、喜んでほしいとの思いからはじめたこのお祭りは、平成28年で17回目を迎えた。当日は、まつり限定の特売や、野菜の即売、物産市、工場見学、格安の屋台、子どもに大人気のキャラクターショー、空くじなしの福引大会などの様々な催しが行われ、来場者は4千人を超えるほどの人気。

牛乳早飲み大会や、マスコットキャラクター「めんべいくん」が子どもたちと一緒に踊るめんべい体操など、遊び心のある企画も好評。社員自らが企画や運営に携わっており、当日は社員総出でまつりを盛り上げる。

【平成26年の福太郎まつりの実行委員長を務めた営業3部 秋山将志さん】

「来ていただいた方に、いかに喜んでもらうか、楽しんでもらうかを第一に考えて行っています。最近、ブースごとのリーダーを若手社員が任されており、それを周りの社員がバックアップするなど、まつりの運営を通じて、社内各部署の連携も深まっていると感じます。」



屋台メニューは全て驚きの安さ



多彩なステージイベント



めんべい体操でノリノリの子ども達

○工場見学

福太郎本社のめんたい工場にて、スタッフの説明を聞きながら、工場での作業風景を見学できる。誰もが楽しめる工夫がされているため、子どもから高齢者まで来場者は幅広い。

工場見学後は、平成28年3月にオープンしたばかりの「FUKUTARO CAFE」で温かいご飯と明太子を無料で試食でき、気に入った商品は、品揃え豊富な本社直営店で購入することもできる。また、見学者には工場見学限定の商品が用意されている。

カフェは、バリアフリーとなっており、車椅子の高齢者やベビーカーの親子連れにも優しい造りで、お昼には日替わりの明太子が何度でもお替わりできるランチメニューやデザート（めんべいバニラ）も取り揃えている。また、広いカフェ店内は、イベントの開催などでも幅広く利用されている。



幻想的な雰囲気の中、スタッフが案内



工場での作業風景を見学



充実の試食メニュー（写真は6名様分）

○福太郎カップ

「スポーツを通じ、強い体と心を養ってほしい」と、毎年福太郎本社体育館にて開催しているバスケットボールの大会。福岡都市圏の中学校バスケットチームが、トロフィーを目指して白熱した試合を展開。試合後には、学校が異なるチーム全員で食事会を開き、お互いの友情を育むきっかけづくりにもなっている。

※同社のバスケットボールチーム「福太郎めんべい」は、全国クラブチーム選手権を制し、日本一になった実績もある強豪。



白熱する試合の様子



食事会は、チームを超えた交流の場

○カフェスペースを活かしたイベントの開催

明るく開放感あるカフェスペースを活かして、様々なイベントを開催中。



※ P.22 で、同社と宮竹公民館・宮竹小学校のマッチング事例を紹介しています。

事例4：株式会社 やずや

会社概要

【所在地】（本社）福岡市南区那の川1丁目6番14号

【設立】昭和52年1月

【従業員数】118人（正社員102人/H29.3.1現在）

【事業内容】一般消費者対象の健康補助食品の通信販売。

「元気であり続けるために、自分たちが欲しいものを」を商品ポリシーに、「熟成やずやの香醋」や「やずやの発芽十六雑穀」など40種類以上の商品を取り扱っている。



○地域情報誌『まねき猫』発行

やずや本社周辺の地域をメインに、地域情報誌『まねき猫』を毎月22,500部発行しており、昨年8月で創刊20年を迎えた。（毎月25日の新聞折り込み）

平成8年の創刊以来、歴代新入社員が編集長をつとめ、企画から取材・編集を行う。暮らしに役立つ情報や地域で行われている活動やイベントなどを紹介。文字もイラストもすべて手書きで作成されているのが特徴的で、地域の方々にも少しでも身近な存在として思っていたきたいという想いを込めた紙面となっている。

【『まねき猫』担当 商品企画室 弘中 和さん】

「紙面に取り上げる地域の情報は、地域の皆様が何か困っていることはないかな？知りたい情報、知られていない情報はないかな？と考え、それを解決できる場所がないか、また、地域貢献をしている人たちや名人がいらっしやらないか、自分の足でまちを歩いて探しています。

幅広い世代の方に楽しんでもらえる記事づくりを心掛けており、紙面の内容が偏らないように、あらゆるジャンルの内容を掲載しています。」



第241号『まねき猫』
（平成28年8月号）

○食育スタジオ：やずや親子クッキング教室

中央区今泉の天神プレイス2Fの「やずや倶楽部」で、親子で参加できるクッキング教室を開催している。食と健康に携わる会社として、「未来を担う子ども達に、季節（旬）を味わう喜び、作って食べる感動・楽しさを伝えたい」とはじめた取り組み。作り方を教えるだけではなく、目で観察したり、手で触ったり、食感・味の違いを比較してみたりと、五感を使って体験しながら学ぶ料理教室となっている。



わかりやすく丁寧に教えてもらえます。
子ども達の表情はとても真剣。

○子どもバルーン体験会

バルーン競技において世界選手権日本人初のチャンピオン（2014年ブラジル熱気球世界選手権大会優勝）であり、同社がスポンサーを務める藤田雄大選手を招き、子ども向けのバルーンイベントの体験会を、平成28年6月に開催。バルーン立ちあげ体験や、実際に子ども達が搭乗しての飛行デモンストレーション、バーナー体験などを実施。子ども達は、日常で味わえない体験に大興奮の様子でした。



事例5：住宅型有料老人ホーム 生活倶楽部ウイズ長丘Ⅱ

会社概要

【所在地】福岡市南区長丘3丁目21番5号

【設立】平成23年3月1日

【従業員数】30名(平成28年8月現在)

【事業内容】株式会社西日本介護サービスが運営する住宅型有料老人ホーム。要介護者や要支援の高齢者を受け入れており、自宅のような居住空間で、生活援助やレクリエーションが受けられる。デイサービスや認可外保育施設「ウイズキッズ長丘」を併設する多機能型複合施設である。



○ランチビュッフェ

地域の人たちに施設のことを知ってもらいたい、生活上の困りごとがあった時に気軽に相談できる存在でありたいと、平成27年11月から施設の1階を開放して、施設調理師が腕を振るうランチビュッフェを月に1回開催している。

毎月料理の内容は変わり、ご当地グルメが数多く並ぶ。数に限りがある関係で、事前予約制だが、誰でも利用でき、料金は大人500円、中学生200円、小学生100円、6歳未満無料と格安。

入所者や施設職員に交じって食事をするスタイルで、気軽に隣に座った人と話ができる雰囲気である。利用者からは「メニューがたくさんあり、何から食べるか迷ってしまう」「デザートまであって嬉しい」と喜ばれている。

当初は、いかにこの取り組みを知ってもらうかが課題であったが、自治会の協力を得て、回覧板や地域の掲示板などで、毎月開催の告知を行っている。

現在、土日や夕食時での開催、夏祭りなどの企画も検討・試行中であり、より地域に根差した取り組みを進めている。



豊富なバイキングメニュー



明るく広々とした食堂

【ウイズ長丘Ⅱ 施設長/管理者 椎木 隆嗣さん】

「まずは、地域の方々に施設のことを知ってもらうことだと思い、そのきっかけになればとビュッフェをはじめました。すぐに結果が出なくても『継続して実施すること』が大切だと思い、毎月続けてきました。いまは、少しずつですが、皆さんに認知されてきて、毎回楽しみにして来てくださる方もいます。

今後は、デイサービス終了後の施設スペースの開放なども検討しており、誰でも気軽に立ち寄っていただける、地域の皆さんが集える場所になればと考えています。」

事例6：特別養護老人ホーム 花の季苑

会社概要

【所在地】福岡市南区和田4丁目16番1号

【設立】平成4年6月1日

【従業員数】75人

【事業内容】平成4年に開設した特別養護老人ホーム。高齢者の健康と生活を守るため、「尊厳をまもる介護」「地域との連携」を基本方針に、入所者(50名)の日常生活上の支援や介護、機能訓練やレクリエーション等を行っている。ショートステイ(20名)やデイサービス(40名)、ホームヘルプサービスなどの在宅サービスにも幅広く対応している。



○移動支援

三宅公民館で開催された高齢者会食会に、自宅が遠く参加をあきらめていた人たちのため、日中は使用しないデイサービス送迎用バスを活用し、地域の高齢者の送迎を行った。

南区社会福祉協議会が作成している「まちかどかかり付け施設」への登録がきっかけで、校区内が広範囲で、公民館まで足を運ぶことが難しい高齢者がいると知り、地域行事に気軽に参加してもらうお手伝いが出来ればとはじめた取り組みである。

高齢者夫婦・独居高齢者を対象に2日間開催された会食会に、延25名程度の送迎を実施。参加者の皆さんからは、大変好評であったため、今後は、買い物支援などでの活用も検討している。



送迎バスに乗り込む参加者の皆さん
今回はじめて会食会に参加した方も多数

○出前講座

地域の要望に応じて「介護保険制度の入門編と認知症」や「介護老人福祉施設について」等のテーマに沿って、職員が公民館や地域マンションの集会所等で講座を開催している。講座の内容は、対象者の希望に柔軟に応じることができ、経験豊富な専門職員から、具体的な話が聞けるため、大変好評である。



熱心に聞き入る参加者の皆さん
非常に複雑な介護保険制度を、わかりやすく解説してもらえる。
「認知症」についても地域の方々の関心が高く、認知症サポーター養成講座の希望も多い。



○中学生の職場体験の受け入れ

毎年7月～9月に、中学生の職場体験を受け入れている。認知症サポーター養成講座の受講や、高齢者の不自由さを理解するための疑似体験を盛り込むなど、その場限りの体験で終わらないような内容に工夫されている。

今の子ども達が社会で活躍する頃には、職業職種に関係なく、高齢者や認知症への理解が必要になる超高齢社会を迎えるため、認知症を学ぶことは「生きる」を知るという教育だと考え、今後もこの取り組みを継続していく予定である。



中学生認知症サポーター養成講座の様子

○施設スペースの提供

月に2回、介護予防を目的とした自主グループに、地域交流スペースを活動の場として提供。

明るく開放的な雰囲気での地域交流スペースで、介護が必要な人ではなくても、定期的に集い、交流が図れる貴重な場となっている。



広々とした地域交流スペース

【花の季苑 小山田業務課長】

「地域交流・地域貢献・地域公益は区別して考えています。当法人は、社会福祉法人ですので、公益的な取り組みを地域で行い社会貢献する責務があると認識しています。

何かしらの日常生活に支障を感じている高齢者が、地域で生活する中で、全ては公的なサービスで補えない現状があります。いわゆる自助・互助・共助・公助の中で「互助・共助」の力を蓄えていく必要性があります。

これからも、地域の中で“杖”や“車椅子”のような役割を果たしていきたいと考えています。

『待ちの福祉から街にでる福祉』にシフトチェンジが必要な時期だと感じています。」

事例7：エフコープ生活協同組合 城南支所

会社概要

【所在地】福岡市城南区樋井川4丁目6番11号

【設立】昭和58年4月

【従業員数】フルタイムスタッフ1,062人、
定時スタッフ1,736人(H27年3月末時点)

【事業内容】福岡県内約47万人の組合員が利用する生活協同組合の、南区・中央区・城南区(一部)を管轄する支所。スーパーやデパートなどと違い、生活者である組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っており、「より良いくらしとより良い社会を実現していくための組合員による共同組織」である。宅配サービスを中心に、共済、介護サービス、葬祭、旅行、住宅など、くらしを幅広くサポートする事業を行っている。



○出前講座

子ども達が楽しみながら環境やエコについて学ぶことを目的に、「牛乳パック工作」「エコキャンドルづくり」などの出前講座を行っている。エコキャンドルは、冠婚葬祭で使いきれなかった口ウソクを再利用するもので、色とりどりのチップを使うことで、オリジナルのキャンドルに生まれ変わる。

また、鉛筆工場で出たおがくずを再利用した、乾くと木になる粘土「もくねんさん」を使った工作教室は、毎年福岡アジア美術館で開催される絵本ミュージアムでも実施している人気の講座。普通の粘土とは違う「もくねんさん」に最初は戸惑う子ども達も、生協スタッフが丁寧にアドバイスしてくれるため、すぐに自分のペースで思い思いの作品作りを楽しむことができる。

なお、これらの出前講座は、子どもが対象でなくても、要望があれば、公民館やシニアクラブ等で開催することも可能。(参加者は実費(100円程度)負担が必要)



カラフルなエコキャンドル作り



環境クイズでウォーミングアップ



「もくねんさん」で作品作り

○学習会

ライフプラン・アドバイザー(生協所定のライフプラン養成セミナーを修了した組合員)が、『くらしのお金』に関する様々な学習会やワークショップに応じている。「ママのスキルアップ講座(教育・住宅・老後)」「どうなる『私の年金』」「ウキウキ・わくわくおこづかいゲーム(小学生対象)」など、幅広い世代を対象に様々な内容で実施している。

(講師料不要。会場費・資料代等のみ主催者負担)

3人以上集まれば開催が可能で、参加者からは、「知ることが大事だと実感した」「楽しく話が聞けてよかった」などの感想が聞かれている。



「エンディングノートを作ってみませんか？」



「おこづかいゲーム」



くらし見直し学習会の様子

○子育てひろば

県内7か所の店舗（南区は「花畑店」）の組合員ホールを使って、親子で自由に遊び、楽しみながら子育て仲間との時間を共有できる憩いの場所として、毎月1～2回「子育てひろば」を開設している。決まったプログラムなどは特にないため、気軽に立ち寄ってそれぞれのペースでゆっくり過ごすことができる。組合員でなくても、未就園児とその家族なら誰でも利用可能。

ひろばには絵本やブロックなど、子どものためのおもちゃが用意されており、赤ちゃんコーナーやおむつ替えスペース、飲食スペースも設けられている。天候を気にせず、屋根のある公園のように自由に集まって、楽しい時間を過ごせる場として、店舗周辺地域の親子連れに親しまれている。



親子で楽しめるひろば

○地域行事への参加

エフコープのマスコットキャラクター「アップルちゃん」や「コーすけ」（着ぐるみ）が、地域の要望に応え、子育てサロンやお祭りに登場し、プレミアムグッズの提供も行っている。



子育てサロンにアップルちゃん登場



試食品の提供



校区運動会で「コーすけ」と記念撮影

【エフコープ生活協同組合 城南支所活動推進担当 蝦原 弘行 さん】

「エフコープはより良い暮らしと社会を実現していくために、消費者が集まり運営する組織です。地域の中で、楽しみながらためになる様々な活動を行っていますので、たくさんの人に知っていただき、暮らしに役立てていただきたいと思います。」

事例8：上長尾名店街

会社概要

【所在地】(事務局)福岡市南区西長住2丁目25番28号

【発足】昭和58年4月

【加盟店舗数】58店舗

【事業内容】南区と城南区に挟まれた県道555線沿いの約700mに立地する58店舗が加盟する商店街。



○自治協議会加盟団体

当商店街は、以前から自治協議会と一体となって地域活動に参画しており、地域コミュニティの担い手として中核的役割を担っている。



校区新春の集いにも参加



校区夏祭りへ全面的に協力



チャリティもちつき

○上長尾マルシェ

店主の高齢化に伴い、将来の商店街を担う人材や後継者の不足に対する危機感や、時代の変化に対応した商店街づくりを進めるため、平成26年から名店街主催で、毎年10月に「上長尾マルシェ」を開催している。

名店街の中心部にあるミスターマックス長住店の正面駐車場で行うイベントで、地域で活動しているグループのライブ演奏やダンスの披露、ビンゴゲーム、飲食・雑貨などの出店などを楽しめる。

名店街の役員10名ほどで実行委員会を構成し、企画から運営まで行うが、当日は自治会からも運営スタッフとして参加しており、日頃から地域との良好な協力関係がうかがえる。平成27年は、健康ブースを設けて、血圧計や体組成計等による無料チェックを行い、測定結果に基づく保健師のアドバイスが受けられる企画を実施し、多くの来場者で賑わった。

【上長尾名店街企画担当/シノクマ地建副代表 津間本 耕洋さん】

「マルシェは、10年後、20年後に、2代目、3代目となる若い世代が、店主としていつでも戻って来られるよう、いつまでも賑わいのある地域でなければならないとはじめた取り組み。天神や博多、郊外の大型ショッピングセンターに行かなくても、この商店街で一通りのものは揃うことを、たくさんの人に知ってもらおうきっかけとしたい。」

(上長尾マルシェ)



H27年度のチラシ

H27年のマルシェの様子。たくさんの人たちで賑わった

○上長尾テラス

有限会社吉浦ビルと連携して、商店街に隣接するエリアの空き家をリノベーションして、地域コミュニティ食堂「上長尾テラス」を平成28年月に開設。商店街の休憩、情報発信の場所として、カフェ機能やレンタルスペースを提供する。現在はまだ本格稼働していないが、将来的には、商店街が食材の提供や来街者へのPRを行う予定。

上長尾テラスは、商店街・地域コミュニティ双方の活性化を促し、西長住の魅力を高める地域交流拠点として、今後の取り組みが大変期待される。



外観



カフェメニュー



子ども達が集える場

【上長尾名店街会長 / 有限会社スウィング代表取締役 松山 英雄さん】

「地域活性化なくして、商店街の存続はないと考えているので、地域貢献活動は当たり前のこととしてやっている。昔から、各店舗の方々が、地域住民の一員として活動してきたことが、自然なかたちで受け継がれてきているのだと思う。

上長尾名店街は、アーケードがなく、商店街としてあまり認知されていないことが課題であるが、色々な取り組みを通して、これからも名店街の魅力を発信し、盛り上げていきたい。」

事例9：香蘭女子短期大学

会社概要

【所在地】福岡市南区横手1丁目2番1号

【創立】昭和10年5月

【教職員数】77人

【事業内容】学校法人山内学園が運営する私立短期大学。ファッション総合学科，食物栄養学科，保育学科，ライフプランニング総合学科の4学科で構成。「創意・自立・敬愛」を学訓とし，教養と専門知識の両面で優れた現代社会で活躍する女性の育成を目標としている。



○地域と連携した様々な取り組み

香蘭女子短期大学では，地域活性化や学生の社会人としての自立という観点から地域と学生のとの連携活動に力を入れている。

きっかけは，平成26年に開催した「香蘭短大見学会」である。大学側から，「せっかく近所に大学があるのだから，遊びに来ませんか？」と呼びかけたことから，横手校区社会福祉協議会が主催し，横手公民館も協力して実現。ふれあいサロンの参加者を中心に，約60人が学食での昼食や学内の見学，ミニ講座，学生との交流などを楽しんだ。

この見学会の成功を機に，より地域に開かれた大学として，地域の方々に親しまれる存在となった。この催しは恒例行事として毎年秋に開催されている。



ボリューム満点の学食ランチ



学長によるミニ講座



図書館を見学

また，横手校区環境委員会と協力し，毎年地域住民の意識向上のために，学生がデザインしたエコバッグを制作し，11月の香蘭祭（学園祭）で来場者に配布する取り組みを行っており，若い学生のセンスあふれるデザインは地域の方々にも大変好評を得ている。

他にも，学友会が主催する年2回の短大周辺の清掃活動や学生ボランティアサークルによる施設訪問、地域行事への参加，ライフプランニング総合学科の学生による，短大周辺の清掃活動など，ボランティア活動にも力を入れている。



香蘭祭でエコバッグを配布



学生・教職員による清掃活動



地域安全運動キャンペーン

○ファッション

ファッション総合学科では、授業で身につけた知識や技術を実践または発揮するイベントを数多く行っており、その取り組みが地域活性化に大きく寄与している。

大橋駅西口広場で開催されるイベント「楽しかおおはし」では、今年度初めての試みとしてまちづくりチーム「みなみまちむすびプロジェクト」との共同で、学生が手作りのファッションショーの企画・運営、ワークショップなどを行い、イベントの目玉として会場を盛り上げた。

また、横手小学校の生徒とのジョイント授業で、学生がエプロン作りを指導するなど、大学の強みであるファッション分野で、幅広く地域貢献を図っている。



楽しかおおはしのファッションショー



小学生にエプロン制作指導



チャリティーファッションショー

○食育

食物栄養学科では、食の専門学科として地域の子供の食育活動を行ってきた。学生が植えた野菜を子供たちと一緒に収穫し、その後保護者と料理する親子クッキング教室の開催、食育のレシピ集の作成、保育学科と共同での食育絵本の作成と、これらの地域への配布など、様々な取り組みを通して食育活動での地域貢献を目指している。



【ライフプランニング総合学科教授 / 地域連携センター長 河野洋子先生】

「本学では平成27年度に「地域連携センター」を立ち上げ、これまで個々の教職員や学生が行っていた地域連携・地域貢献活動を短大全体で支援していく体制をとっています。手始めに、各教職員や学生がどのような活動を行っているのかを調査し、この情報を全学で共有しました。個別に持っている情報やノウハウを共有することで、地域との連携がさらに活性化することを期待しています。

現在の課題は、地域からの要請に対して十分に答えきれていないことがあげられます。短大では行事や授業（実習等）の関係で地域とのスケジュールが合わない場合も多いのが現状です。来年度より地域総合科学科であるファッション総合学科とライフプランニング総合学科が4学期制へ移行し、より地域との連携を行える体制づくりを模索しています。

地域での様々な活動を通して、本学学生の成長（コミュニケーション能力・企画力・柔軟性等）が見て取れ、地域の活性化だけでなく、本学にとってもこの地域連携は学生教育の場として役立っています。今後もこのWin-Winの関係を続けていけるよう願っています。」

事例10：公益財団法人 社会福祉笑顔ふれあい財団

会社概要

【所在地】福岡市南区大橋1丁目8-21-405

【設立】平成23年10月

【職員数】10人

【事業内容】人と人がふれあうことをコミュニケーションの手法とする「ふれるコミュニケーション」で、老若男女を問わず人々が手軽に「心のいやし」「ストレスの解消」「1人ではない事の安心感」を感じて頂くことで、笑顔あふれる地域、家族、社会づくりをサポートする為に活動している。

普及啓発事業としてのボランティア活動や市民講座を行う他、大学と提携して研究・調査を行ったり、養成校認定事業を展開している。



○ボランティア活動



癒しのハンドケアやフットケア、ネイルケア等を行い、「ふれるコミュニケーションによる笑顔づくり」の普及啓発を行っている。

以前は、高齢者や障がい者施設でのケアを中心とした活動であったが、現在は地域からの要望に応え、公民館活動や地域カフェ等でも広く実施している。参加者は「これが楽しみで来ている」「普段できないことが体験できて嬉しい」と大変人気のプログラムとなっており、地域カフェやふれあいサロンの魅力を高める取り組みとなっている。



【福祉エステボランティアの高橋さん】

「活動は限られた時間の中で行いますが、利用者の方との会話を楽しみながら、きめ細やかなサービスが提供できるよう心掛けています。おしゃれが好きになったと喜んでいただき、活動に参加するごとに、笑顔で参加してくれる方が増えていくことを実感できて、やりがいがあります。」

○市民講座

「ふれるコミュニケーション」の技術、知識を手軽に身につけてもらい、家族間や友人間、又職場等で活用できるよう市民講座を実施。

福岡市 NPO ボランティアセンターあすみんからの依頼で行っている小学校への出前講座では、①レクチャー（高齢者との接し方やハンドケアの方法）→②ふれあいサロンで実際に高齢者へハンドケアを実施→③発表会と、小学生が段階的にボランティアを学び、体験するプログラムとなっており、参加した小学生からは「素手でマッサージをすることで、心が伝わったと思う」と充実した笑顔が見られた。また、地域とのつながりを深められる活動として、小学校からも、地域の高齢者からも大変好評である。



①レクチャー



②ふれあいサロンで実践



③発表会

ボランティア講座は、小学校だけではなく、高校などでも実施しており、対象者に応じたプログラムが用意されている。

他にも、認知症カフェや子育てサロンなどで、地域の要望・ニーズに応じて「眉毛の整え方講座」「隣の人とのふれあいレクリエーション」「自宅での簡単な手の乾燥対策」「母と子のコミュニケーション講座」等、手軽に受けられる講座を幅広く行っている。



高校でのボランティア講座



眉毛の整え方講座



母と子のコミュニケーション講座

【社会福祉笑顔ふれあい財団 事務局長 東 秀憲さん】

「『地域コミュニティの活性化が重要』などと言われていますが、重要なのは地域の『生の声』をつかむ事ではないかと考えています。地域の方と出会い、その地域に何が必要か？コミュニケーションをとれば必ず、その地域に必要な事が見えてきます。

難しく考える必要はなく、単純な事が必要であり、続ける事が重要です。

私どもは『笑顔』と『ふれあい』をキーワードに活動しています。人が他人と生活するうえで、コミュニケーションは不可欠であり、笑顔は『最大のコミュニケーション』です。さらに『ふれる』という動作が人を笑顔にし続ける方法であると考え、日々地域の方々と共に活動をしています。

～平成 28 年度 事業実施報告～

「まちづくり懇話会」開催報告

本事業の一環として、地域活動に関心のある企業等の関係者にお集まりいただき、「まちづくり懇話会」を開催しました。全国各地でまちづくりに関するプロデュースを行っている田坂逸朗氏をファシリテーターに迎え、主に企業の立場から「共創のまちづくり」を考えました。

日 時：平成 28 年 11 月 28 日(月) 13:30～16:00

場 所：南区役所本館2階大会議室

参加者：地域活動に関心のある南区内の企業・事業所・大学等の関係者22名
自治協議会等地域団体関係者5名

【前半】事例紹介 ダイキョープラザ 総務部長 赤間 幸栄 氏

主に(株)ダイキョープラザが取り組んでいる「買援隊」事業について、お話をいただきました。従来から実施していた宅配サービスを見直し、敢えて収益性が低く、手間が掛かる御用聞きサービスを開始した経緯や、目的、社内での合意形成のプロセスなどを伺うことが出来ました。

特に「地域行事への参加からスタート」「人を出すことが大事」などのお話が印象的でした。



【後半】カフェ交流会～グループセッション

コーヒーを飲みながら、名刺交換や、自由な意見交換を行いました。皆さん、初対面とは思えないほどの盛り上がりで、新しいアイデアもたくさん生まれていたようです。



☆懇話会を通じて得られた縁結びのヒント☆

- ・地域も企業も「無理なく継続」することが大切
→双方が「出来ること」を話し合いの中から見出す
- ・出会うこと、知り合うこと、活かし合うことを重視した関係づくり
- ・「地域貢献」は、お金をかけなくてもできる

平成 28 年度 マッチング事例紹介

企業ヒアリングや「まちづくり懇話会」の開催を経て、地域活動に関心のある企業と地域をマッチングして、今年度実現した新たな地域と企業の取り組みについてご紹介します。

事例 1

昨年春にリニューアルオープンしたカフェスペースを生かして地域貢献に取り組みたい意向があった(株)山口油屋福太郎(以下、同社)と、宮竹公民館をマッチングし、平成29年1月14日(土)に小学生を対象としたピザ作り教室を開催しました。

当日は、23人の小学生が参加し、ピザ作りに挑戦するとともに、社員によるめんたいクイズや、企業の歴史がわかる紙芝居などの企画で盛り上がりました。

宮竹公民館の山根利基館長は、「子ども達はまた行きたいと大満足の様子だった。歩いて行ける距離の企業で、こういったイベントができて良かった。地元企業に愛着を持つきっかけになったのでは。」と話しました。

今回のイベントを担当した同社の赤崎真紀さんは「今後も地域の方々に喜んでもらえる取り組みを継続していきたい。」とのことでした。



事例 2

事例1のイベントの検討を進める中で、公民館経由で宮竹小学校にも縁が広がって実現した事例。平成28年9月23日(金)、同社専務取締役の山口勝子氏が、小学校からの依頼をうけるかたちで、同校の5年生(約150人)を対象に、「すごかあ 福岡」という单元の中で、長年地域で活躍している企業人として、福岡の食文化に関する講話を実施。

事例 3

学校法人宮田学園「国際貢献専門大学校」の外国人留学生から、地域貢献活動を行いたいとの申し出があり、学生さん方の意向を踏まえ、南区事業「公園維持管理機材レンタル事業」を活用した環境美化活動を提案。平成28年11月2日(水)に、学生と学校職員19名が清水中央公園の除草を行い、地域住民に喜ばれた。



平成29年3月
福岡市南区総務部企画振興課

〒815-8501
福岡市南区塩原三丁目25-1
TEL:092-559-5016 FAX:092-562-3824
E-mail:kikaku.MWO@city.fukuoka.lg.jp